

昭和55年8月26日第三種郵便物認可 平成6年3月10日発行 (毎月1回10日発行)

ともえ



繁栄を
あなたと育てる
商工会議所



市立函館図書館

No. 150

函館商工会議所報
1994 — 3月号

はこしんは豊かな暮らしと
確かな未来の実現に
お手伝いいたします。

みなさまの



函館信用金庫

本部 函館市豊川町7番19号 TEL22-1241(代)

本 店	函館市豊川町15番20号	TEL 22 - 1247(代)	亀田支店	函館市亀田本町56番4号	TEL 42 - 3820(代)
松風町支店	函館市松風町11番15号	TEL 23 - 6221(代)	中道支店	函館市中道1丁目24番12号	TEL 51 - 1711(代)
ばんたい支店	函館市宮前町14番15号	TEL 41 - 6236(代)	上磯支店	上磯郡上磯町飯生町2丁目4番24号	TEL 73 - 2151(代)
五稜郭支店	函館市本町30番24号	TEL 52 - 0511(代)	えさん支店	亀田郡恵山町字中浜115番の4	TEL 84 - 2111(代)
弁天支店	函館市弁天町13番11号	TEL 26 - 3646(代)	七飯支店	亀田郡七飯町字本町392番8	TEL 65 - 2501(代)
千代台支店	函館市千代台町12番22号	TEL 51 - 5238(代)	木古内支店	上磯郡木古内町字本町53番1	TEL 木古内 2 - 3121(代)
湯川支店	函館市湯川町2丁目18番7号	TEL 57 - 1492(代)	知内支店	上磯郡知内町字重内13番地の11	TEL 知内 5 - 5611(代)
花園支店	函館市日吉町1丁目27番3号	TEL 53 - 5521(代)			

Lhくみのローン

手続カンタン
スピード融資

目的ローン

マイカーローン

ビジネス・オート
ローン

★詳しくは窓口へ
お問い合わせ下さい。



・コミュニティバンク・

函館商工信用組合

本店 函館市千歳町9の6 ☎(代)23-2101

- 湯川支店 ☎57-0572(代)
- 上磯支店 ☎73-2308(代)
- 美原支店 ☎46-9121(代)
- 十字街支店 ☎26-5544(代)
- 花園支店 ☎55-2110(代)
- 富岡支店 ☎43-1311(代)

●ともえ3月号 (通巻150号) 目次 ●

今月の表紙／視点…………… 2 5
 会議所の動き…………… 1

・本所部会・委員会開催

・65歳継続雇用事業や改正労基法を解説

・伊藤運輸大臣来函

・米輸入における函館港の利用を陳情

・ウラジオストク副市長表敬訪問

・新函館市観光基本計画策定委員会開催

・中国貿易投資懇話会開催

・第8回地域振興フォーラム開催

データをチェック…………… 6

調査レポート…………… 6 11

・地域の景気―金融経済概況 (一月)

・市内第一種大規模小売店舗売上高 (一月)

・函館地域における景気動向 (平成24年度
第3四半期)

誌 上 講 演…………… 12 13

・エイズと企業―予防と対策 (8)

・人を活かす **相談の効用**

共済推進コーナー…………… 15 14

・暮らしのワンポイント

・さわやか君

・有段を目指して 詰碁・詰将棋

アドバイスコナー…………… 16 17

・戦略的経営計画のため方・ポイント

Q & A…………… 18 19

・みんなの相談室 **税務相談**

ご 案 内…………… 20 22

・中小企業倒産防止共済のご案内

・刊行物のご案内

・平成6年度各種検定試験日程

・講習会のご案内

・第38回函館圏優良土産品推奨会ご案内
 ・ご利用下さいノ本所の個別専門相談

◇今月の表紙

市立函館図書館

市内青柳町の函館公園内に建つ「市立函館図書館」は、昭和三年七月十六日、小熊幸一郎氏の寄付金などにより、鉄筋コンクリート三階建てで竣工した。函館における図書館の歴史は、明治三十九年(一九〇六年)岡田健蔵氏が自宅に図書室を開設したのに始まり、明治四十二年(一九〇九年)には、函毎緑叢会(函館毎日新聞の投稿者の集り)の企画により、函館公園内の函館区所有の協同館を借りて市民有志の手によって運営される私立函館図書館が開館した。大正十五年(一九二六年)市立函館図書館の設立が決定したのを機会に、私立函館図書館の蔵書三万余冊をはじめ、建物を含むすべてを引継ぎ、現在の市立函館図書館が誕生した。蔵書の中には、啄木文庫など特色のある資料を収蔵していることでも名を知られている。

視 点

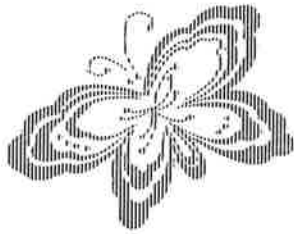
雪も多く寒さが厳しかった今年の冬も、二月後半には雨が降り、春の暖い日差しが感じられる季節となりました。

さて、平成五年度の第三次補正予算は国会を通過しましたが、平成六年度予算の成立は、まだその目途さえも立てられない状況で、明年度に所得税の減税を実施することはきまりましたが、抜本的な不況対策といえる施策が見当らず、景気の底打ちも確認されていない中で、有効な経済対策の実行も遅れ、不安要素もあることは事実です。また最近の変化に対する感度も、少々鈍くなってきたようにも見えますが、このことは三年も続いている長い不況の中で、これに耐える体質改善も行われ、不況を生き抜く術も身につけてきているとも言えるのではないのでしょうか。

しかし、函館にとっては明るい話題もあります。それは何と言っても、函館空港の国際空港化です。

四月四日には、サハリンのユジノサハリンスクより一番機が到着しますが、以後週二回、わが国のサハリンとの唯一の航空路の窓口として、函館空港の果たす役割は、益々重大となってくると思います。また、近年貿易量が急増してきている中国や東南アジア諸国は、函館にとっても最大の取引先となっており、これら地域との経済交流は、本市の将来にとっても大きな影響をもつと考えられますので、函館空港の国際化を機に、直行チャーター便を大いに活用することにより、直行定期便の就航につなげ、国際空港の機能を活用し、交流の拡大をはかっていきたいものです。

会 議 所 の 動 き



本所部会・委員会開催

一 理財部会幹事会

理財部会幹事会が、去る二月八日(火)午後一時三十分より本所にて開催されました。

当日は、平成六年度に取り組む事業について、まず協議しましたが、前年度からの継続事業である新幹線の早期建設、函館港の整備拡充、函館市まちづくり三カ年計画の推進のほか、懸案となっていた新函館市観光基本計画や、函館駅前地区再開発計画の実施などについて、新年度も強力に推進していくこととし、このための合同部会や合同会議を開催していくこととしました。

一 国際交流委員会

去る二月二十五日、国際交流委員会が本所会議室で開催されました。

当日は、まず、函館空港の国際

線開設に向けたこれまでの経緯の概要が報告され、続いて一月十九日に若林会頭と西野国際交流委員長により行われた、東南アジア方面の関係航空会社東京支社に対す

65歳継続雇用事業や改正労基法を解説

北海道・本所共催による「六十五歳継続雇用地域推進事業」報告会並びに「改正労働基準法」説明会が、去る二月二十二日午後一時三十分より、五島軒駅前店会議室において、百二十余名が参加して開催されました。

当日は、主催者を代表し北海道商工労働観光部、鈴木高齢者対策担当官の開会挨拶の後、昨年本所が前記事業の一環として実施しました「高齢者雇用に関するアンケート調査」の概要につき、日野中小企業相談所長より報告がなさ

る国際定期航空路線開設要望の結果などについて報告がなされました。

さらに今後、本所では航空会社、旅行会社、国際交流団体等との情報交換の場を設定し、国際定期便は難かしいとしても、国際チャーター便の増便を強力に推進していくことを確認しました。

れました。

引き続き「改正労働基準法のお知らせ」について、北海道労働基準局、佐藤特別司法監督官より、説明がなされ、質疑応答の後盛会裡に終了しました。

※今回の労働基準法改正により、本年四月一日より法定労働時間が原則「週四十時間」に移行することになりました。改正の内容につきましては、本誌二月号より労働基準監督署の協力をいただき、掲載しておりますので、ご参照下さい。

伊藤運輸大臣来函！ 新幹線の青函同時開業協力を約束

伊藤運輸大臣が去る二月十九日に来函したのを機に、市内ホテルで陳情会が行われました。

陳情を行ったのは、北海道新幹線建設促進道南地方期成会（会長・本所若林会頭）、渡島総合開発期成会（会長・木戸浦函館市長）、桧山総合開発期成会（会長・越森奥尻町長）などで、それぞれの立場から、地域の重要課題である新



▲伊藤運輸大臣に陳情を行う若林会頭

幹線の建設、函館空港の滑走路延長、そして港湾・道路の整備促進等について要望しました。

新幹線の建設については、特に青函同時開業を強く訴えたのに対

米輸入における 函館港の利用を陳情

昨年は、戦後二番目の大凶作となり、米の緊急輸入措置がとられ、函館港でも今年一月にタイ米輸入船、二月には中国米輸入船が入港し、荷揚作業が行われました。

米の輸入については、今後、緊急輸入とともにウルグアイ・ラウンド交渉合意に基づくミニマムアクセスの受入れのため、継続的に実施される見通しであり、これに向けての函館港の有効活用が期待されることから、去る二月二十五日、函館市や本所など関係五団体が、北海道食糧事務所に対して、米輸入における函館港の利用につ

し、同運輸大臣より、青函同時開業は、北海道全体にとって意義のあることであり、希望に沿うよう協力したいと、前向きな姿勢を示す一方、財源、採算性、並行在来線などの問題について、地元がフォーラムやシンポジウムを開くなどして、知恵を出し合う必要がある旨の発言がありました。

いて陳情しました。

特に、函館港の場合、岸壁の確保が容易であり、麦輸入指定港でもあるため、政府指定倉庫・植物防疫指定くんじょう倉庫・保税倉庫が立地、高い収容能力を備え、また荷役体制も充実しており、さらに太平洋、日本海の結節点として地理的条件にも恵まれていることから、効率的な米の受入・供給体制がとれることもあり、引き続きの輸入米の荷揚港として、函館港の利用促進を強く要望しました。

ウラジオストク副市長 表敬訪問

当市の姉妹都市ロシア・ウラジオストク市のオレグ・セミョーノフ副市長一行が、去る二月十五日に来函、翌十六日には、一九九四年度の交流に関する覚書を、木戸浦函館市長と交わした後、本所を表敬訪問して、若林会頭、小笠原副会頭等と、今後の経済交流について懇談しました。

席上、セミョーノフ副市長からは、「ウラジオストク市では、企業の軍需産業から民需産業への転換が進んでいる。民需産業への転換に、函館市の企業も参加してほしい」との要請がなされました。これに対して若林会頭は、「民需産業への転換の中で、我々がどのような協力が可能なのか。まずは情報交換から始めなければならぬ」と回答。双方が企業紹介等を通じて情報交換を行いながら、経済交流を進展させていくことを確認しました。

新函館市観光基本計画素案決定 第4回策定委員会開催

函館市では、かねてより新函館市観光基本計画の策定に取り組んできましたが、去る二月十四日には、第四回新函館市観光基本計画検討委員会（函館市内の市民・学識経験者らで構成、委員長・本所平野専務理事）が、五島軒駅前店で開催され、新しい計画の素案がまとまりました。

同計画は、昭和五十七年度に策定された現行計画が、平成七年度の年間観光客入込み数を、四百五十万人と想定していたのに対し、平成二年度には、青函トンネルの開通や航空網の充実などにより、すでにこれを達成するなど、実情と乖離してきており、また、新しい観光需要などに対応していく必要が生じてきたため、改定することとしたものです。

今回の新計画では、計画期間を平成六年度から平成十五年度までの十年間、平成十五年度での年間

観光客入込み数を、七百五十万人と設定しているほか、「国際・通年・快適・広域」を主な基本理念に掲げるなど、二十一世紀を見通した観光ビジョンを明示しており、

中国への積極的な進出を！ 中国貿易投資懇話会開催

本所及び北海道経済国際化推進会議、北海道、函館市等の共催による「中国貿易投資懇話会」が、去る二月二十五日、市内ホテルで開催され、中国との経済交流に積極的な企業や団体などが参加しました。

懇話会では、野村證券中国プロジェクト室次長の佐藤秀一氏が、「改革・開放に沸く中国―新段階を迎えた企業進出」と題して講演を行い、この中で同氏は、中国へ進出するには、まず目的を明確にすること。また、進出する地域の

「国際観光都市・函館」をまちづくりの大きな柱の一つとしている当市にとつては、現状分析から基本計画に至るまで幅広い検討を加え、充実した内容となっていることから、観光関連業界などからも注目されています。

なお、新計画は、年度内にまとめられ発刊の予定です。

選定が極めて重要であり、現地調査を十分に行なうこと。さらには、どのように交渉し、契約するかが成功の鍵となると説明、また、参加企業からの質問に対して、投資にはリスクが伴うが、現地調査をすることによって、リスクがどの程度か見えてくる。決して危険ではないなどと、中国への投資を呼び掛けました。

第8回地域振興フォーラム

本所、函館市、(社)函館青年会議

所、(社)函館地方法人会青年部会共催による、第八回地域振興フォーラム「コンベンションと函館」が去る二月十八日、函館ハービービューホテルにおいて開催され、本所からも小笠原副会長はじめ議員多数が出席しました。

当日は、まず、(財)日本コンベンション振興協会の手島誠一常務理事より、「地域振興に果たすコンベンションの役割」と題した基調講演が行われ、コンベンションが地域経済にもたらす効果について詳しい解説がなされました。

引き続き行われたパネルディスカッションでは、奥平北海道教育大学函館校教授、井上函館ハービービューホテル取締役総支配人、大桃(社)函館青年会議所第四十代理事長の三名がパネラーとなり、地域の特性を考慮した形での施設建設、そして、コンベンション・シティ函館の実現に向けての誘致推進組織であるビューローの早期設置など、それぞれの立場から活発な討議がなされ、約二百余名の参加者が熱心に聴講しました。



事務局日誌

2月

* 正副会頭会議

- 10(木) 第56回正副会頭会議
- 24(木) 第57回正副会頭会議

* 部会

- 8(火) 理財部会幹事会

* 委員会

- 25(金) 国際交流委員会

* 審査会

- 17(木) 小企業等経営改善資金審査会

* 諸会議

- 2(木) 北海道大型観光キャンペーン事業打合せ会議
- " 四者懇談会(市長、渡島支庁長、日銀支店長、会頭)
- " 第3回函館地域特定中小企業集積支援技術開発事業推進委員会
- " 北洋はまなすクラブN P C 函館ブロック連合会経済講演会
- " 平成5年度第3回振興委員連絡会議
- 3(木) FMいるか第5回番組審議会
- 4(金) 函館経営者協会幹事会
- " 北海道東北開発公庫第7回情報交換会
- " 函館地域デザイン振興連絡会議
- 7(月) 国民金融公庫函館支店第8回連絡懇談会
- " 第2回空の日実行委員会
- 8(火) 函館空港連絡協議会
- 9(水) 函館市競輪運営協議会
- " 函館市都市計画審議会
- " 第2回国立函館大学構想調査研究会分科会
- 14(月) 函館市観光基本計画策定委員会
- 15(火) 北海道テクノポリス検討協議会
- " ウラジオストク市公式訪問団との懇談会
- 16(水) ウラジオストク市公式訪問団との昼食懇談会
- " 第10回函館市老人保健福祉計画策定検討委員会
- 17(木) 65歳継続雇用地域推進事業業務推進・経験交流会議
- " 大規模小売店舗における小売業の事業活動の調整に関する法律に基づく意見聴取会議
- " 函館販売士協会役員会
- 18(金) 第8回地域振興フォーラム「コンベンションと函館」
- 21(月) 議員懇話会講演会(講師・吉原英吉氏)
- " 渡島管内商工会指導関係機関と商工会長懇談会
- 22(火) 所報「ともえ」3月号 No.150編集会議
- " 宮本信生北海道担当大使との夕食懇談会
- 23(水) 北海道管区行政監察局函館行政監察分室第6回行政懇談会
- " 北海道東北開発公庫による平成6年度予算(政府原案)の概要説明会(説明者・北海道東北開発公庫総務部総務課・新沼幸一郎課長代理)
- " 平成6年度労働保険事務組合年度更新関係業務説明会
- " 管理職会議
- " 婦人会役員会
- 24(木) 暴走族追放対策会議
- " 北海道電力函館支店との懇談会
- " ㈱北海道観光連盟ホスピタリティの推進並びにサービスの向上に関する全議
- 25(金) 道南地域企業セミナー「自己啓発の時代」
- " 中国貿易投資懇話会
- " 北海道大型観光キャンペーン推進協議会道南地域設立幹事会
- " 函館繊維商組合定期総会、若手2代目経営者等との懇談会
- 26(土) 日本珠算連盟北海道ブロック協議会臨時総会

* 講習・催物

- 4(金)~9(水) 青森・函館ツインシティ提携5周年記念「青森・函館物産と観光展」
- " '94日本経済の展望と春季労使交渉をめぐる諸情勢(講師・日本経営者団体連盟法制部部長稲庭正信氏)

- 8(水)~10(木) 函館地域ニューメディア展
- 9(木) ニューメディア講演会「観光振興における地域情報化の役割」
- " 経営相談
- " 業界別接客セミナー(寿司店)
- " ~14(月) 「本場奄美大島鮫と観光物産展」
- 11(金) '94はこだて冬・フェスティバル
- 22(火) 「高齢者雇用促進事業」報告会並びに「改正労働基準法」説明会
- 25(金) 経営安定特別セミナー「“資金繰り”実務のポイント」
- " 法律相談

* 刊行物

所報「ともえ」2月号 No.149

* 相談・診断

金融 63 税務 337 経理 14 経営 24 労働 1
取引 0 その他1 合計 440

* 貸室

10

* 文書

受信 127 発信 17

* 検定・大会

- 6(日) 4級ワープロ技能検定試験
- 13(日) 第140回珠算能力検定試験
- 16(水) 第21回1級販売士検定試験、第33回3級販売士検定試験

* 陳情・要望

- 19(土) 伊藤運輸大臣の来函に伴う陳情会
- 25(金) 米輸入に伴う函館港の利用に関する陳情

* 慶弔・その他

- 1(火) 郵政クラブ新年の集い
- " 全日本空輸㈱函館支店長峰英雄氏来所
- 2(水) ㈱鴻池組北海道支店取締役支店長安濃孝一氏、函館営業所近江谷精一所长、和田紀昭副所长来所
- 4(金) 知内商工会新会館落成式典、祝賀会
- 7(月) 衆議院議員鉢呂吉雄氏、秘書板倉一幸氏来所
- 8(火) 本場奄美大島鮫と観光物産展一行表敬訪問
- 9(水) 本場奄美大島鮫と観光物産展開会式
- " 北海道商師環境衛生同業組合函館支部、函館同業会新年懇親会
- 10(木) 朝日新聞社によるインタビュー取材(会頭)
- 11(金) いかコミュニケーション竣工式
- " '94はこだて冬・フェスティバル
- " オープニングセレモニー(元町会場)
- 12(土) '94はこだて冬・フェスティバル
- " オープニングセレモニー(五稜郭会場)
- 14(月) 新見高卒就職促進会
- 15(火) ウラジオストク市公式訪問団出迎え
- " 歓迎レセプション
- " 確定申告書早期提出街頭PR作戦
- " 中小企業大学校旭川校校長須藤清氏表敬訪問
- 16(水) ㈱日本中国料理調理士会函館支部新年懇親会
- " 函館市商店街振興組合連合会平成6年新年懇親会
- " 北海道ツアーシステム㈱代表取締役社長両角栄三氏、函館支店長清水公明氏、日本航空㈱函館支店長仁井健治氏表敬訪問
- " ウラジオストク市公式訪問団表敬訪問
- 18(金) 第8回地域振興フォーラム講師を囲んでの昼食会
- 19(土) 衆議院議員鉢呂吉雄氏政治活動4周年の集い
- " さくら会、青桜会合同新年会
- 20(日) 函館中央卸売市場買参者商業協同組合新年懇親会
- 21(月) ㈱みちのく銀行函館支店取締役支店長福原則昭氏来所
- " ㈱イトーヨーカ堂函館店ストアマネージャー石倉征男氏就任挨拶
- " 北海道製菓㈱ 社長宮本壽一氏来所
- 22(火) ㈱テクノポリス函館技術振興協会専務理事片岡貞夫氏、事務局長時田可生氏来所
- " エアーニッポン㈱取締役副社長高梨勇一氏、営業部業務課長脇田仁氏表敬訪問
- 23(水) 北海道新聞函館支社酒井誠一郎支社長転任挨拶
- " 三菱商事㈱発注45,000MT DW型撒積貨物船進水式、進水祝賀会
- " 北海道日本料理研究会函館支部、函館割烹調理士会四条公祭並びに新年懇親会
- 25(金) ㈱函館地方法人会青年部会設立10周年記念祝賀会
- 28(月) ㈱函館競馬場馬主協会新年会

工事の発注本格化から、前年比プラス25.1%と引続き高い伸びを示している。また、函館市および周辺3町の新設住宅着工戸数(1月)は、持家、貸家とも高い伸びとなった。この間、建設業者では、公共工事の順調な発注に加え、住宅投資も引続き好調なことから繁忙感を持續している。

(5) 漁業

スケトウ漁(10月～2月)は、桧山では前年を上回る漁模様であったが、渡島での低調な水揚げが響き、管内全体では水揚げ量、金額とも前年を1割方下回っている。また、噴火湾ホタテ漁(12月～3月)は、同湾でのスケトウ漁が例年より長引いているため、今のところ本格的な漁期入りとなっていない。

(6) 消費関連

1月の市内大型小売店(10店ベース)売上高は、初売りの好調やクリアランスセール奏功から前月に比べマイナス幅は縮小したものの、前年比マイナス4.1%と17ヵ月連続の前年割れとなった。耐久消費財では、家電販売が白物家電を中心に前年並みの売上を維持したものの、1月の新車自動車販売は、小型車の不振を主因に前年比マイナス7.2%と2ヵ月連続して前年を下回った。この間、観光・レジャー面をみると、エージェントの低価格ツアー販売促進等の効果やスキー修学旅行

の入込み増加から、1月の函館空港乗降客数が前年比プラス3.2%と4ヵ月連続して前年を上回ったほか、市内主要ホテルの宿泊客数も前年比プラス20.8%と3ヵ月連続して大幅な伸びとなった。また、函館山ロープウェイ等主要観光施設の利用客数も引続き前年を上回っている。

3. 金融事情(1月中)

実質預金は、企業が預貸相殺等により手元資金の効率化を図っていることから、一般預金が引続き低調裡に推移したほか、公金預金の流出増加もあって、前年の339億円の減少に比べて月中449億円の減少となった。また、貸出しも新規の資金需要がまだ低調なことから前年の212億円に比べて月中316億円の減少となった。この間、管内銀行の貸出し約定平均金利は、長・短期ともに低下し、全体では月中マイナス0.119%と大幅に低下した。

銀行券は、金融機関の年末日休日の影響から月初の還流が嵩み、月中263億円の還収超と前年の181億円を大幅に上回った。

財政収支は、郵便局の受超額増加を主因に、全体では前年の126億円の受超に比べ、月中139億円の受超となった。

データをチェック!

お年寄りの交通事故

～約72%が歩行中か自転車乗車中～

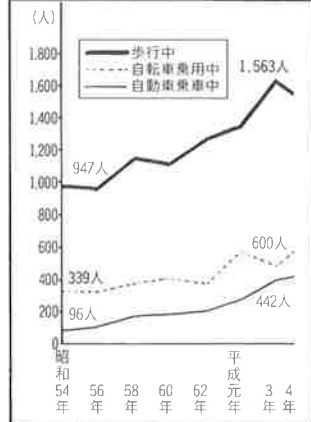
お年寄り(65歳以上)の交通事故死者数をみると、昭和54年には1,613人でしたが、平成4年には2,991人となり、急激な増加のカーブを描いています。

なぜ死者数が増えているのでしょうか。それは、お年寄りの生活様式が多様化し、社会参加や就業など、様々な面で活動的になったことが大きな要因として挙げられます。

平成4年のお年寄りの就業者数(労働力調査)をみると、約450万人。昭和55年と比べると、約1.5倍もの人が働いていることになります。また、趣味や娯楽など、社会参加に当てる時間もますます増える傾向にあります。

では、どのようにして交通事故に遭っているのでしょうか。全死者数の72.4%は、歩行中や自転車に乗っていて事故に巻き込まれています。また、死者数は少ないものの、自動車に乗っているときに事故に遭うケースも、昭和54年の約6倍になっています。これは、お年寄りの生活が活動的になったことを裏付けています。

お年寄りの状態別交通事故死者数の推移



地域の景気

金融経済 概況 1月

(平成6年2月28日発表)

日本銀行函館支店

1. 概況

管内経済をみると、公共投資、住宅投資の堅調持続に加え、観光客の入込みも持ち直しているが、個人消費が年明け後も新車自動車販売の前年割れが続くなど、総じて不冴えであり、景気は停滞基調を脱していない。

すなわち、製造業では、水晶振動子が移動体通信関連の需要好調により、また、セメントが官公需に加え外需の好調もあって、ともにフル生産体勢を維持している。さらに、半導体、合板機械、造船が高めの操業を続けているほか、水産加工機械もスポット案件の獲得により前年を上回る売上をみている。これに対して、水産加工は、乾燥珍味を中心に需要の低迷から売上が前年割れを続けているほか、製缶機械も抑制的な生産姿勢を継続している。

一方、非製造業では、1月の市内大型小売店の売上は、初売りの好調やクリアランスセール奏功によりマイナス幅がやや縮小したものの、17ヵ月連続の前年割れとなった。また、耐久消費財では、家電販売が引続き前年並みの売上を確保したものの、新車自動車販売は2ヵ月連続して前年を下回った。この間、1月の観光客の入込みは、低価格ツアー販売促進等の効果やスキー修学旅行の増加から、市内主要ホテル宿泊客数は3ヵ月連続して大幅に前年を上回った。

漁業では、スケトウ漁は渡島での低調な水揚げが響き、管内全体では水揚げ量、金額とも前年を1割方下回っている。

こうしたなか、管内企業の最近の設備投資動向をみると、5年度中高伸をみたサービス、

小売業での積極的な投資はさすがに一巡しつつあるが、このところ中堅、中小製造業の一部で、リストラに伴う更新投資や需要堅調を眺めて能増投資を前向きに計画する先がみられ始めている。

1月の金融動向をみると、景気停滞基調が続くなかで、預金、貸出しともに総じて低調裡に推移。この間、管内銀行の貸出し約定平均金利は大幅に低下した。

2. 主要業種別動向

(1) 機械・電子部品

水晶振動子は、携帯電話など移動体通信関連の需要急伸によりフル生産体勢となっており、下請先も含め増産の動きが顕著となっている。合板機械は豊富な受注残を背景に、造船は新造船の受注残消化に加え、橋梁、修繕船などの官庁向け納期を控えて、それぞれほぼフル生産に近い体勢。また、半導体も米国向け4MDRAMの需要好調を主因に高めの操業を維持している。このほか、水産加工機械は、需要は依然弱基調ながらスポット案件の獲得により前年を上回る売上を確保。一方、製缶機械は、飲料品消費の低迷や輸入空缶の増加により製缶業者からの受注が減少しているため、抑制的な生産体勢を継続している。

(2) 食料品

水産加工の売上をみると、生鮮珍味は引続き順調に推移しているものの、乾燥珍味が需要の低迷から引続き不冴え裡に推移しており、全体では前年を下回っている。また、飼料の売上は引続き低調ながら、魚油の売上は持ち直している。

(3) その他製造業

セメントは、官公需のほか外需の好調もあってフル生産体勢を継続しているほか、生コンの出荷も、災害復旧工事の本格化を映じて、冬場の不需要期としては高水準を維持している。また、段ボールの生産・出荷は、冷凍食品向けが順調に推移していることから引続き前年を上回っている。一方、合板は、家具等消費財向け需要が依然低迷しているほか、安値代替品との競合もあって抑制的な生産姿勢を続けている。漁網の受注・生産も需要の低迷から総じて低調に推移している。

(4) 建設関連

管内主要5官庁の公共事業発注額(1月末累計)は、北海道南西沖地震に係る災害復旧

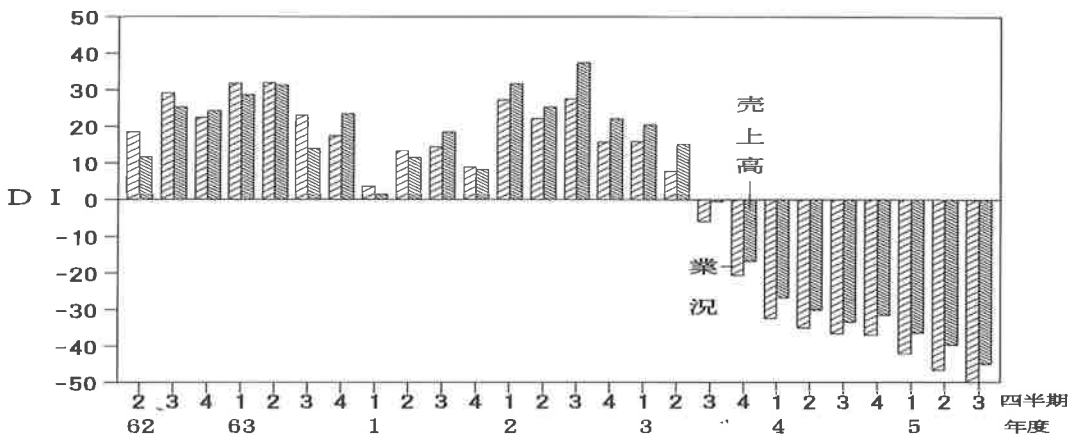
【サービス業】

今期比 -52.0、前年同期比 -48.0となり、今期比、前年同期比ともに増額を見込む企業が見られないなど、観光関連業種を中心に厳しい見通しが続いている。

3. 資金繰りについて

来期の資金繰りについては、全業種で今期に比べ「好転」とする企業 1.1%に対し、「変わらない」とする企業が76.8%、「悪化」とする企業22.1%で、D Iは -21.0となり、資金繰り状況は今期と同様の見通しとなっている。

図-7 業況売上額D Iの推移 (全業種・対前年同期比)



函館市内、第一種大規模小売店舗売上高<10店>

平成6年1月

品名	売上高(千円)	対前月比(%)	対前年同月比(%)
衣料品	3,502,283	93.0	94.1
身の回り品	821,200	76.0	96.0
雑貨	790,686	72.4	94.3
家庭用品	647,465	72.4	100.2
食料品	1,692,830	47.7	98.1
食堂・喫茶	183,831	99.6	93.2
サービス	73,645	94.2	67.9
その他	573,938	69.1	104.7
総計	8,285,878	72.2	95.9

統計資料

<10店>棒二森屋、丸井今井、さいか、和光、ダイエー五稜郭、
 テーオー小笠原、長崎屋、イトーヨーカ堂、函館西武、ダイエー湯川店の各店

卸売業では「景気の見通し難」21.7%、「販売価格の値下がり」17.4%。

小売業では「純利益の減少」13.6%、「客足の減少」10.2%。

サービス業では「客足の減少」が16.7%、「人件費の増加」12.5%となっている。

来期(1~3月)の見通し

今 期： 5年10月～12月実績

前年同期： 5年 1月～ 3月実績

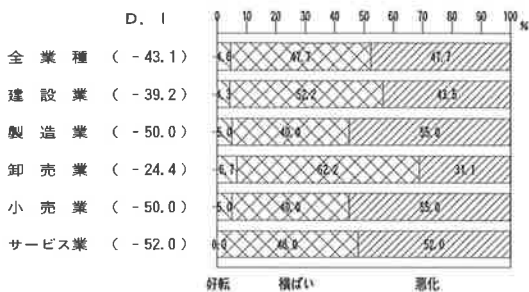
1. 業況について

来期業況見通しを全業種で見ると、今期に比べ「好転」するとみる企業5.1%に対し、「横ばい」とみる企業が50.3%、「悪化」するとみる企業は44.6%となっており、D Iは-39.5となっている。

前年同期比で見ると、「好転」4.6%に対し、「横ばい」47.7%、「悪化」47.7%で、D Iは-43.1となっており、引続き厳しい見通しとなっている。

業種別のD Iで見ると、今期比では、建設業-43.5、製造業-41.5、卸売業-43.5、小売業-28.3、サービス業-52.0。前年同期比のD Iでは、建設業-39.2、製造業-50.0、卸売業-24.4、小売業-50.0、サービス業が-52.0といずれの業種もさらにマイナス幅が拡大、引続き厳しい見通しとなっている。

図-5 来期の業況見通し (対前年同期比)

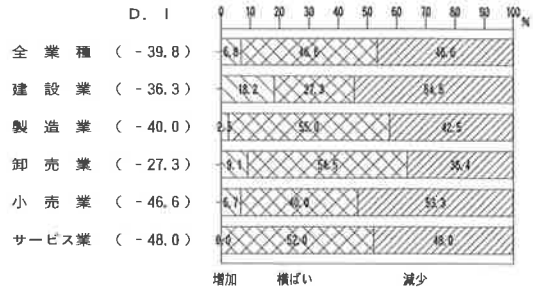


2. 売上額について

来期の売上見通しを全業種で見ると、今期に比べ「増加」するとみる企業10.9%に対し、「横ばい」とみる企業42.2%、「減少」するとみる企業46.9%で、D Iは-36.0となっている。

また、前年同期比で見ると、全業種では「増加」6.8%に対し、「横ばい」が46.6%、「減少」が46.6%で、D Iは-39.8となり、引続き減少傾向が見込まれている。

図-6 来期の売上見通し (対前年同期比)



次に来期の売上見通しを業種別のD Iで見ると、

【建設業】

今期比-14.3、前年同期比-36.3となったが、総合工事業で今期比のD Iがプラスに転じたほかは、引続き厳しい見通しとなっている。

【製造業】

今期比-41.4、前年同期比-40.0と引き続き減少傾向。わずかに機械金属関連で今期比のD Iがプラスとなったが、それ以外では増額を見込む企業が見られず、厳しい見通しとなっている。

【卸売業】

今期比-42.2、前年同期比-27.3となっており、医薬化粧品、燃料卸売業で、前年同期比がプラスに転じて、増額を見込む企業が多くなったが、他は厳しい見通しとなっている。

【小売業】

今期比-28.3、前年同期比-46.6となったが、自動車小売業では今期よりは増額を見込む企業が多くなっている。しかしスーパー等の各種商品小売業では増額を見込む企業がないなど、引続き厳しい見通しとなった。

次に売上額を業種別にみると、

【建設業】

今期の工事完成額についてのD Iは、前期比 -30.5、前年同期比 -36.5となったが、職別、設備工事業では前期比、前年同期比ともに「好転」と回答した企業がなく、厳しい状況となっている。

【製造業】

今期の生産額についてのD Iは、前期比が -22.5、前年同期比 -48.7となったが、D Iがプラスの細業種はなく、低水準で推移している。

【卸売業】

今期の売上額についてのD Iは、前期比が -2.2、前年同期比が -28.8となったが、前期比では食料品・燃料卸売業が、前年同期比では燃料卸売業がD Iプラスとなっている。

【小売業】

今期の売上額についてのD Iは、前期比が -27.9、前年同期比 -48.4となったが、個人消費の停滞から、D Iがプラスの細業種はなく、依然低調に推移している。

【サービス業】

今期の売上額についてのD Iは、前期比が -76.0、前年同期比 -68.0とマイナス幅がさらに拡大、旅館・ホテル等観光関連業種では「好転」企業が見られないなど、引続き厳しい状況となっている。

3. 純利益について

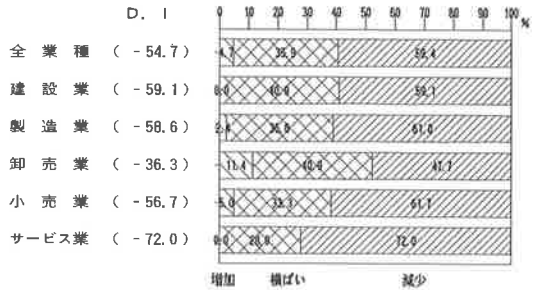
今期の純利益を全業種でみると、前期に比べ「増加」している企業 9.2%に対し、「横ばい」が37.4%、「減少」している企業53.4%で、D Iは -44.2となり、引続き減少傾向で推移している。

また、今期の純利益を前年同期比でみると、全業種では「増加」 4.7%に対し、「横ばい」 35.9%、「減少」 59.4%で、D Iは -54.7と

なり、依然採算は悪化傾向にある。

業種別にみても、すべての業種で前期比、前年同期比ともD Iが2ケタのマイナスとなっている。

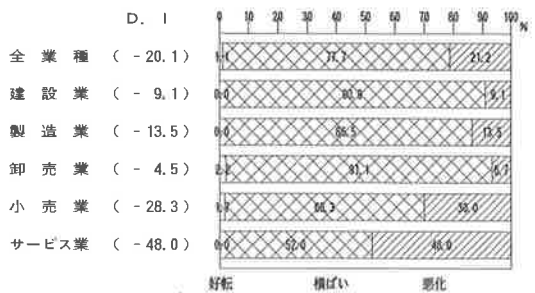
図-3 今期の純利益 (対前年同期比)



4. 資金繰りについて

今期の資金繰りを全業種でみると、前期に比べ「好転」している企業 1.1%に対して、「変わらない」とする企業が77.7%、「悪化」している企業21.2%で、D Iは -20.1と、引続き厳しい状況となっている。

図-4 今期の資金繰り (対前期比)



5. 経営上の問題点

今期最も苦慮している経営上の問題点としては、引続き「売上・受注の不振」をあげる企業が56.1%で最も多く、またこれはいずれの業種でもトップとなっている。

その他の問題点を業種別にみると、

建設業では「景気の見通し難」が18.2%、「労務費の増加」、「純利益の減少」がそれぞれ 9.1%。

製造業では「景気の見通し難」が17.1%、「純利益の減少」12.2%。

函館地域における 景気動向

〈平成5年度・第3四半期〉

平成5年度・第3四半期（平成5年10月～12月）の函館地域における景気動向調査（本所調査）結果がまとまりましたので、概況をお知らせします。

尚、調査対象及び回収状況は次の通りです。

業種	対象企業数	回収企業数	回収率
全業種	320社	197社	61.6%
建設業	40	23	57.5
製造業	80	42	52.5
卸売業	70	46	65.7
小売業	90	61	67.8
サービス業	40	25	62.5

（注）本調査結果中のD Iの記号は、ディフュージョン・インデックス（景気動向指数）の略で、各調査項目について増加（好転・上昇）企業割合から減少（悪化・低下）企業割合を差し引いた値を示しています。

今期(10月～12月)の実績

前 期： 5年 7月～ 9月実績

前年同期： 4年10月～12月実績

1. 業況について

函館地域企業の今期業況を全業種で見ると、前期に比べ「好転」している企業12.8%に対し、「横ばい」が39.8%、「悪化」している企業47.4%で、D Iは -34.6となっており、引続き悪化基調で推移した。

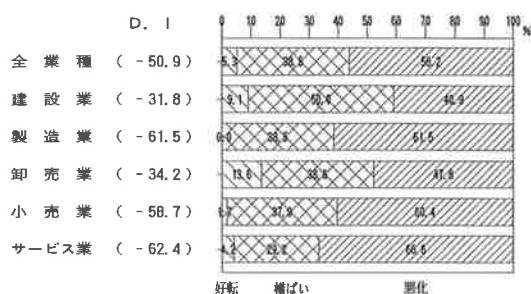
業種別のD Iで見ると、建設業 -43.4、製

造業 -31.0、卸売業-8.7、小売業 -36.7、サービス業 -76.0と卸売業以外はマイナス幅がさらに拡大している。

また、今期の業況を前年同期比で見ると、全業種では、「好転」5.3%に対し、「横ばい」が38.5%、「悪化」が56.2%で、D Iは -50.9となり、平成3年度第3四半期以来、9期連続のマイナスとなった。（図-7参照）

業種別のD Iで見ても、いずれの業種も引続き2ケタのマイナスとなり、40～70%の企業が業況の悪化を訴えている。

図-1 今期の業況（対前年同期比）



2. 売上額について

今期の売上額を全業種で見ると、前期に比べ「増加」している企業17.5%に対し、「横ばい」が37.6%、「減少」している企業44.9%で、D Iは -27.4となり、引続き減少傾向を示している。

また、今期の売上額を前年同期比で見ると、全業種では「増加」8.9%に対し、「横ばい」37.2%、「減少」53.9%で、D Iは -45.0となり、9期連続のマイナスと依然低水準で推移している。（図-7参照）

図-2 今期の売上額（対前年同期比）

